

ミニミニ インクル通信

宇品東小学校 インクルーシブ通信 No. 4
令和5年7月3日

今年度のインクルーシブ教育実践研究での研究主題を「読み書きへの困難さを踏まえた算数科の授業づくり」としました。
先月の柳原指導主事による講話では、合理的配慮の実践について詳しく教えていただき参考になる部分が多々ありましたので、お伝えします。

【読むこと】が難しい児童への支援	【書くこと】が難しい児童への支援
<ul style="list-style-type: none"> 教科書にルビをうつす (ルビ打ちのテストをとる) わかり書きのものを使う (スラッシュを入れる) 読み上げをする 教科書を持たず、指でなぞる 読みやすいグッズを使う 	<ul style="list-style-type: none"> ノートと同じ書き方で板書する 教科書にそのまま書き込む ますの大きさを食べる 先生が書いたものをなぞる 見本を手元に置く(黒板を写真に撮る) 問題は書かず、大事なところだけ書く タブレットを使用して打つ

☆その児童が読み書きの何に困っているかによって支援の方法は変わってきます。

スリットをあてる

定規をあてる



低学年ではよく小さい黒板を使いますね。



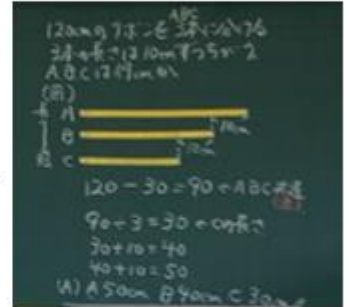
ミニミニ インクル通信

宇品東小学校 インクルーシブ通信 No. 8
令和5年7月24日

ついに夏休みに入りました！みなさんの笑顔を見ると私も嬉しくなります。夏休みまでの先生方のキラキラインクルを紹介しします。



1年生「長さ」の学習。比べるコツを確かめた後、実際に紙で比べる活動をしていました。班の分だけ比べるものの準備は大変ですが、主体的学ぶことができそうです！



テープ図で表すことで、問題場面が把握でき、違いに気付いて考えることができていました。



枠だけでは値がずれてしまう児童。線の線を入れることで、正確に計算できるよう工夫されていました。



見本を見せるという支援だけでなく「一文字一文字でいねいに書いていますね。」とよいところを書くことで何をマネするのがよいか分かりやすくなっています。



ミニミニ インクル通信

宇品東小学校 インクルーシブ通信 No. 16
令和5年10月18日

先日は、授業参観ありがとうございました。柳原指導主事からお話していただいたことをいくつか紹介します。

① 環境調整と落ち着き

以前の通信でも、環境整備についてお伝えしました。教室から移動するときにも意識して声掛けをし、整えることで子どもたちの気もちも落ち着きます。廊下の騒中もきれいにそろっていると気持ちがいいですね。



② 子どもが分かるルールの徹底を

授業に関係する自由な発言などOKとしていて教室がガヤガヤしていた私のクラス…渋谷先生のクラスを数分見て感動しました！

授業に関係のある発言を自由にしていました。でも、挙手して発言している児童もいれば、挙手しないで発言する児童もいます。その違いは、

- ・挙手して発表する児童→先生の質問に答える
- ・挙手しないで発言する児童→先生や児童に対する反応でした。子どもがきちんと理解し、授業に参加していました。

自由な発言が授業の妨げになっていた。きちんと聞くことができていなかったりする場合、まず挙手して発表するというルールにします。

何の時にどんな発言をしようかきちんと子どもに示すことが大切です。



③ 児童の実態を捉えた授業準備を

根本先生のクラスのヨくん。交流に参加できていない。授業も15分しか集中できない。そんな彼のために、主に社会に力を入れて毎授業をされています。15分で終わるように短冊を作ったり、書くことが苦手なため穴埋めのワークシートにしたりとたくさんの支援がありました。彼の実際をしっかり把握されている根本先生だからこそできる支援です。

授業の経験を積むことができていました。何か一つはさせたい力を入れてやることで子どももつてきますね。



④ 構造化された板書

めあてがあることで今日のゴールは何か、何をやるのかが分かります。まとめてどんなことが分かったのかが分かります。授業を構造化し板書することで、視覚的にも児童に分かりやすくなります。



⑤ 頑張りを認める言葉・寄り添う言葉

4年生の5君。授業中落ち着かず、授業に参加しないことが多くありました。「昨日授業に参加している5君に話しかけると「おれ、後期からちゃんと授業に参加することにしたいけん。」と！前日に主幹先生から喝を入れられつつも「今までできていたこと知ってるよ。一緒にやろうや」と声を掛けていただき、授業をしたようです。彼に寄り添い、認めてあげること安心して授業にさんかできたのでしょう。私も彼に何度も声を掛けてきましたが、彼の心に響くことはなく…。主幹先生の子どもの心をグッとつかむ声掛けをマネできるよう、子どもとたくさん話をしたいと思いました。 (今後も一週一週を繰り返してしょうが、見守っていきます。)

